

あまみずと共につくる豊かな暮らし

あまみず 生活

vol. 03

2016 Fall



樋井川と善福寺川（東京杉並）の中学生が交流！

平成28年8月8日～10日に、樋井川流域の友泉中（福岡市城南区）と善福寺川流域の東田中（東京都杉並区）の中学生による交流事業を開催しました。

東田中では、善福寺川の水質や環境を良くするための研究部活動があり、福岡の良い川を体験し、あまみずの勉強を学んで自分たちの活動に生かしたいという経緯から今回の交流事業が実現しました。

初日は、樋井川で自然観察をした後、あめにわ憩いセンターでの交流会でした。2日目は、福岡大学でワークショップを行ない、樋井川を綺麗にするために、流域治水の一環として友泉中学校にあまみずをどう貯めていくか、それによりどう学校環境をより良くしていくかを大学生も交えて議論しました。3日目は、上西郷川（福岡県福津市）での自然観察と地元の方々との交流を行ないました。

両中学生の感想として「友泉中や地域の方々との忘れられない出会いになった。」「具体的な流出抑制のワークショップが勉強になった。」「同じ都市河川の樋井川がこれだけ綺麗→善福寺川も同じようになれる!」「個人のことでなく、みんなのこととして目を向けると洪水が減ることがわかった。」が得られ充実した交流会となりました。

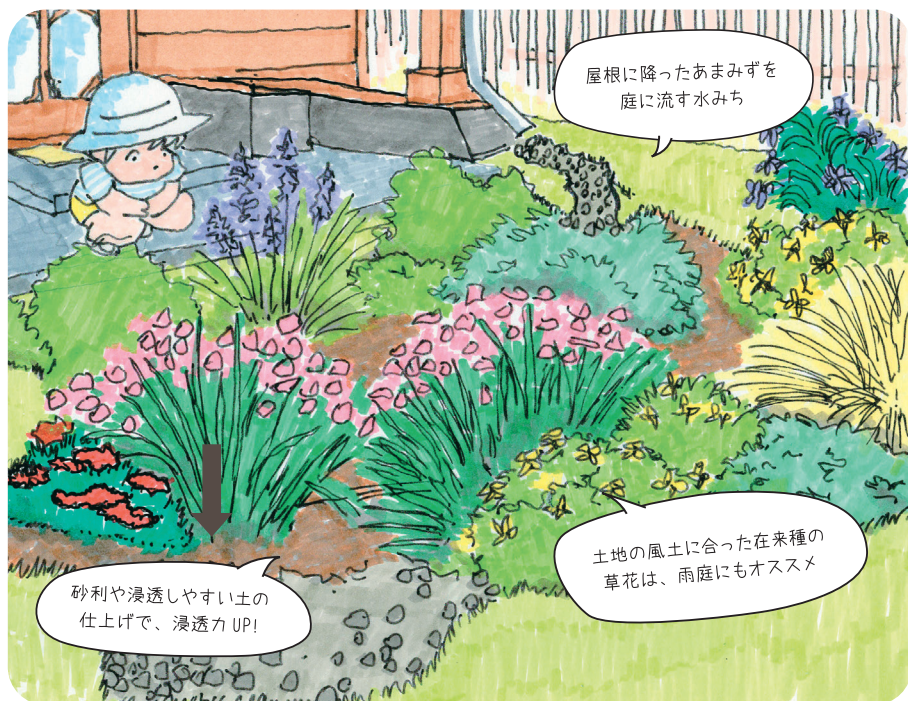


あまみず生活 暮らしのイメージ2<庭編> 緑と水のあるうるおいのある庭づくり！

「雨庭」という言葉をご存知ですか？「雨庭」とは、屋根やアスファルトなどに降ったあまみずを集めて一時的に貯留し、浸透させるための庭（植栽空間）のこと。あまみずを集めて貯留するため窪地型をしているのが特徴で、溜めたあまみずは溢れないように地中に浸透させる仕組みをもっています。

雨庭にはたくさんのメリットがあります。緑と水のあるうるおいのある景観、雨庭から蒸発する水によってヒートアイランド現象を緩和、生き物や植物の豊かな環境、あまみずが一気に河川に流れ込んで発生する洪水を抑制・・・。

仕組みはいたってシンプルな雨庭づくりは誰にでもすぐに始められる簡単なものです。ご興味を持たれた方はぜひ一度ご相談ください！



みずたまり通信



「あまみず科学センター」 が仮OPEN！

あまみず科学センター（福岡大学内）に、あまみず社会研究会の活動内容が展示され、仮OPENしました。今後も少しずつ中身を充実させ、来年中にはあまみずに関する資料や貯留グッズを展示し、見学可能な先進的なあまみず貯留浸透設備や雨庭などを備えたあまみず科学館となる予定です。福岡県建築士会や大学生を中心に、市民参加など多くの人が関わるプロセスで作っていく予定です。お楽しみに！



驚きの浸透実験結果！

あまみず社会研究会の＜多技術・知恵をつなぐチーム＞が、あめにわ憩いセンターの庭で、あまみずの浸透実験を行ないました。実験結果は、庭や緑地の土中には大量のあまみずを貯められる力がある結果となり、浸透力の大きな可能性を感じさせました。これにより、洪水を防ぐためには、庭や緑地にあまみずを浸透させることが一番安価で効率的で、なおかつ緑が増えて良いということが分かってきました。今後は、手軽に自分の庭で浸透力を測れる手法を確立していきます。

あまみずレインジャーが舞鶴公園に出動！

平成28年10月15日～16日に、舞鶴公園（福岡市）で開かれた「グリップキャンペーン 水と緑の楽校」に、あまみずレインジャーが出動しました。子供から大人まで環境の大切さを楽しく伝えるレインジャーショーは好評で、今回も始まるやいなや沢山の子連れ親子達を引き付けていました。あまみずレインジャーの出動を要請する方はお気軽にご連絡をお待ちしています。



第5回ミズベリング樋井川会議を開催！

2016年10月28日、第5回ミズベリング樋井川会議を、長尾小と樋井川にほど近い『ほんやカフェにじいろ』でおこないました。ほんやカフェは、この地域でユニークな取り組みをするおかあさんや起業家が集って情報交換したり、取り組みの計画を立てています。また子供の図書スペースや駄菓子屋コーナーがあり、昔懐かしい、とても素敵な雰囲気です。

そんな地域のあたらしい拠点で、今回は前回会議で得られた方針にもとづき、「樋井川ウォーキングコース」と「あまみず学習会」を取り上げました。ウォーキングコースの計画では大学生から現地の図面や写真を使った下見の説明、学習会では専門家からあまみずの賢い利用の仕方として、民家でできる貯留法や「あまみず足湯」の話題が提供されました。参加者からは様々な意見が出ましたし、ウォーキングへの参加希望、カフェ近くの樋井川を清掃する新たな集まりを作ろう、などの意思が積極的に示されて、熱気に溢れた会になりました。

さらに、カフェにつながりのある皆さんの活動として、樋井川の自然の色を調べて子どもと豊かな環境を考える試み、ミツバチを扱うようになって環境の大切さがいっそう身近になったお話などの紹介があり、あたらしく、そして貴重な交流の場となりました。

『ミズベリング樋井川』活動中！

ミズベリング樋井川は、あまみず社会を目指した実践を樋井川流域（福岡市）の人々と連携して取り組むフォーラム・場です。

- ◎ “樋井川”のことを考えながら地域が“つながる”
- ◎ ヨコの“つながり”をつくり、流域治水、環境形成、教育、福祉など地域社会の総合的な取り組みに貢献する
- ◎ 共鳴する人たちと、ムリのないところで、できることをやる

という方針で取り組んでいます。多くのご参加をお待ちしています。

■ミズベリング樋井川HP <https://www.facebook.com/mizberinghiikawa/>





あまみず社会研究会
Labs for Rainwater Society

「あまみず社会研究会」(2015年発足)は、2009年樋井川の洪水被害を契機とした地域住民との流域治水活動から発展し、雨水を活用した分散型水管理システムの構築を通じて持続可能な多世代共創社会をめざす研究グループです。九州大学、福岡大学、九州産業大学、東京大学、福岡工業大学、熊本大学、東京学芸大学のほか、福岡県建築士会、善福寺川を里川にカエル会(東京杉並区)などが参加しています。

分散型水管理システムの主な特徴

維持管理に優れ、 経済的に安価

分散型インフラは、集中型に比べ維持管理が容易で、かかる社会的コストが低い。

柔軟性が高く、 緊急対応性に優れる

一部が破たんすると全体に影響が生じる集中管理型と比べ、分散型はそれぞれが自立しているため、災害時などに全体が破たんしにくく、復旧性も高い。

総合的な取り組みに つながる

雨水を貯め使う過程で、流域内の生態系を豊かにし、緑を増やし、多様な世代・主体が協力する(つながる)機会を生み出す。

■あまみず社会研究会の取り組み (2016年8~10月)

- 8月 2日 留守課程子供会で講演(環境学習)@横手小学校(レインジャー出動)
- 8月 8日 友泉中(樋井川)・東田中(東京杉並・善福寺川)交流事業
- 8月24日 2016年度日本建築学会大会@福岡大学にて活動を紹介
- 8月31日 第4回ミズベリング樋井川会議@福岡大学
- 9月 6日 あめにわ憩いセンターで茶会
- 10月 7日 全体会議@福岡大学・あまみず科学センター
- 10月15日 グリッピキャンペーン出展@舞鶴公園(レインジャー出動含む)
- 10月15日 世界一受けたい科学広場@舞鶴中学校にレインジャー出動
- 10月27日 第5回ミズベリング樋井川会議@ほんやカフェにじいろ